

人と自然の付き合い方を考察して10年

自然と文化科10周年記念誌



公開講演会 17. 4. 15



西はりま天文台見学 18. 11. 9



労金まつり(工作) 23. 11. 13



伊吹山自然観察 25. 7. 26

特定非営利活動法人シニア自然大学校

研究部 自然と文化科

自然と文化科の理念

自然の営みを理解し

人の活動を歴史的に捉え

人と自然の付き合い方を考察する。

自然と文化科のモットー

常に自然と文化について研鑽に励み、
社会に役立つシニアであることを目指す。

全ての活動が「参加して楽しく、
心ふれあう活動」であるよう、全員が
常に心がけると共に、積極的に運営に
参画する。

目次

[本編]

記念誌発行にあたって	肥塚 眞	1
OBからのメッセージ		
1) 自然と文化科の発足一年目	古川 祐司	2
2) 勉強させていただきました	牧野 功	3
「自然と文化科」設立	後藤 銃吾	4
公開講演会を振り返る	九津見 明	5
自然観察の展開	児玉 勝久	6
調査活動について	山本 祥子	7
「自然と文化科」の企画の取り組み	堀内 信彦	8
社会貢献活動に思う	堀川 豊司	9
広報活動について	谷坂 修二	10
研究・活動発表会への取り組み	藤川 宗昭	11
安全で楽しい活動に向けて	高井 茂光	12
工作同好会の活動について	中川 四郎	13
箕面探索同好会の活動	谷川 稔	14
次の10年の更なる発展のために	御旅屋 瑛一	15
「自然と文化科」の将来展望について	溝部 浩二	16
編集後記	武井 貢	17

[資料編]

自然と文化科10年の歩み	18-22
25年度運営体制	23
名簿	24-25
活動記録	
1) 自然観察・植生調査・山歩き	26-31
2) 歴史 文化探検訪・施設見学	32-33
3) 社会貢献	
・シニア自然観察会	34
・その他の社会貢献活動	35
4) 公開講演会	36-38
写真記録（写真で振り返る10年）	39-48
参考資料	
1) シダ図鑑（表紙・目次）	49
2) 自然と文化だより（第1号表紙）	49
3) ホームページの画面	50

記念誌発行にあたって



代表（高等科7期） 肥塚 眞

自然と文化科は、2004年4月に高等科卒業生のための研究科として船出し、関係者各位や諸先輩に支えられて、今年で10周年を迎えることが出来ました。

この節目に当たり、10年間の歴史を振り返り未来を展望するために、記念誌を発行することにいたしました。内容は、関係各位からの寄稿を中心に掲載させていただき、資料編として名簿・運営体制・活動記録など各種データをまとめました。

「自然の営みを理解し、人の活動を歴史的に捉え、人と自然の付き合い方を考える」を理念として、高等科1期・2期生19名でスタートしましたが、現在科員も95名に増えて最大人数の研究科となりました。

この間、科員の創意・工夫、努力により、徐々に体制も充実し活動内容も進化して参りました。科員を対象とした「自然観察・調査」や「歴史・文化探訪」に留まらず、初年度から一般参加者にも開放した「公開講演会」、翌年度から講座生対象の「箕面公開観察会」、3年目から社会貢献活動としてOG対応「シニア自然観察会」、7年目から「ごみ収集ボランティア活動」など年々その活動の幅を広げて、最強の研究科になりつ

つあると自負しております。

現在の当科の最大の課題は、100人体制への対応です。「来る者は拒まず」の方針で臨んでおりますので、科員数が来年度は100人を超えられると思われ、それ以降も漸増が予想されます。喜ばしい限りではありますが、従来と同様な活動を継続するためには、体制や運営方法を見直す必要があります。

次に、公益的な活動（特に社会貢献活動）の拡大です。シニア自然大学校は平成27年度に認定NPO法人への移行を目指しており、公益的な活動の拡大と新会計基準への移行が重要な取り組みになっております。傘下にある当科も、社会貢献活動として、各種イベントへの積極的な参加や活動領域の開拓・拡大などに積極的に取り組む必要があります。

更に、調査・研究活動を充実させることが重要です。ややもすると「遊ぶ」・「学ぶ」に片寄りがちになりますが、当科は飽くまでも調査研究部に所属しており「調査する」、「研究する」ことを強化していくことも課題です。

今後とも、常時改善体制を持ち、時代に適応出来る組織を求めて前進することが重要です。全科員の英知を結集し、創意・工夫をして、「全ての科員が参加して楽しく、心が通い合う」研究科に一層進化していくことを願っております。

ここに次の10年に向けて決意を新たにするとともに、引き続き関係者各位のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



灘黒岩水仙郷(淡路島)にて 26.1.24

自然と文化科の発足一年目



OB(高等科2期) 古川 祐司

(平成16年度代表)

高等科(2期)の卒業を控えた平成15年12月のこと、後藤銃吾さん、児玉勝久さんの提案で同期生仲間と新しい研究科を立ち上げようということになり、たまたま最年長だった私に代表の役割が回ってきました。

科の名付け親は長井代表で、何でもやれる研究科だとのこと。皆で相談して「現代の都市型社会における自然との断絶について問題点を考え、共生のあり方を検討し提言する」という設立趣意書を作成し、1月の理事会に提案、承認されました。かくて4月、高等科卒業生19人による研究科「自然と文化科」が発足しました。

初年度の活動は「自然」「文化」「歴史」を切り口に、以下を眼目としました。

- ① 自然との共生をテーマに、公開講演会などの情報発信をする。
- ② 都市公園と緑地の実態を調べる。
- ③ 里山、棚田の自然を調査する。

活動の常設フィールドは、500年の歴史のある大阪城公園としました。ここには「市民の森」「記念樹の森」「梅林」などの立派な森があり、市内有数の野鳥の観察ポイントでした。戦前の造兵廠跡で、戦後はアパッチ村と言われた屑鉄置き場でした。昭和42年、府の森林公園計画に基づき、全て市民の寄付で造られたという経緯のある森です。

公開講演会で印象に残っているのは、第1回目の基調講演です。講師には文明史、花粉考古学の安田喜憲教授にお願いしました。国際日本文化センターにお訪ねして、足代程度の謝礼に恐縮しながら、自然と文化科の創立趣旨を説明する私達に、「遠慮せず胸を張って一流の先生にどしどしお願いしなさい」と快諾、大いに励ま

していただき、同席した後藤さんと感激したものでした。「環境史から見た文明の興亡」と題した公開講演会は90人が集まる盛況となり、以後、当研究科の特色となります。

活動費には苦勞しましたが、幸い菅沼理事にお願いして「水と緑の森林基金」を使わせて頂くことができ、毎回の講演会の講師料、丸山千枚田への視察旅行費用などを賄い、ほぼ思い通りの活動を行うことができました。

かくて、自然と文化科は少数ながら創新の意気に燃え、チームワークよく順調に滑り出し、十分手応えのある一年となりました。2年目を迎えて高等科3期生の入会で人数は2倍となり、次なる展開を考える段階となりました。私は自分の70歳という年齢を考え、この際思い切って副代表の後藤銃吾さんにバトンタッチすべきだと判断しました。

後藤代表は、初年度の懸案であった組織造りと体制の整備に努められ、爾後の安定的な発展に繋げていただきました。ご努力に敬意を表し、心から感謝申し上げます。

自然と文化科が発足10周年を迎えられ、今日のご盛況を拝見して、皆様の絶えざるご精進の成果を称え、お祝いの言葉といたします。



但馬路 生野銀山坑道入口にて(一泊研修) 17.3.24

OBからのメッセージ

勉強させていただきました



OB(高等科4期) 牧野 功

(平成20年度代表)

10周年おめでとうございます。振り返りますと私に何かお役に立つことがあるだろうかと思い、代表を引き受けさせていただきましたが、何も出来ずに1年で体調の問題で降ろさせていただいたことが脳裏に焼き付いております。「自然と文化科」に在籍させていただいた一番の思い出は、毎月の公開講演会のお世話が、大変だったことです。現在「自然と仲間」に「自然と文化科」主催の講演会の記事が掲載されているのを見るたびに、長くお世話をしているなと感心しております。後藤さん、先輩の方々より色々講師のお世話の仕方を教えていただき、講師に電話、FAX、手紙、メールなどして勉強になりました。「自然と文化科」の理念を何回も何回も読み直して講師の先生にこんな話をしてくださいねとお願いして、うまくいったときやら、講師の知識の披露に終わったときやら、今でも強く印象に残って、苦労した懐かしい思い出になっております。



公開講演会（牧野代表の挨拶）21.2.20

万博などの楽しい思い出が残っております。他の研究科は分かりませんが、「自然と文化科」には、知識の豊富な方が多かった印象が強く残っております。

私の時は、会員数はそこそこでしたが、今は95人と多く運営が大変ですね。「自然と文化科」への入会は高等科卒業を原則としておりますが、何故高等科を出ていないとダメなのといろいろな意見があり、どうしようかと何回か検討をいたしましたことが印象に残っております。振り返ってみますと、高等科卒業を原則としたことは正解でしたね。先輩から「自然と文化科」で学んだ事を糧にして地域の活動に役に立てるようにとご意見をいただいておりますが、私自身は現在、小学校や留学生との交流、身障者支援活動などしてありますが、「自然と文化科」で教えていただいたことが土台となり、大いに役に立っております。現在活動している仲間の半分は「自然と文化科」に在籍しており、活動状況はいつも耳にしており、お世話をされておられる方は、大変なご苦労と感心しております。「自然と文化科」で学んだ事を地域などで生かされ、やり甲斐のある人生を送られ、「自然と文化科」が益々発展されますよう、心からお祈り申し上げます。



中池見湿地にて（一泊研修） 20.10.23

観察会におきましても講座生対象の箕面、

「自然と文化科」設立



(高等科2期) 後藤 銃吾

(平成 17・18・19 年度代表)

「自然と文化科」創立 10 周年誠におめでとうございます。設立当初は賛同して入科してくださった方々に失望を与えないことが最大の使命と考えていましたので、今日の隆盛を見ることができましたことは誠に嬉しい限りです。

入科希望者を集め、初代の代表は古川祐司様にお願いし、設立時の諸手続き始め万事にその手腕を遺憾なく発揮していただきました。これで私の役目は終了と思っていたのですが、2 年目から代表を務めることになりました。

「自然と文化科」設立に際し、参加して楽しい研究科であることに軸足を置きながら、それでも遊びに流れてしまうことのないように、月に一度は講演会を開催することにしました。運営上の最大の難問はこの講演会の継続でした。講師の確保には本当に苦労しましたが、喜ばしいことに研究科の共通講座より非常に面白いという評判を頂きました。当時の共通講座は自然史博物館に丸投げされており、マンネリ化のきらいがありました。また、講演会に回すことができる予算は少なく、環境科、

森林文化科の御協力を頂き、外部の資金援助も受けてかろうじて続けていくことができました。だんだんと「自然と文化科」の科員も増加し、自前で講演会を運営できるようになり、今日まで継続されています。

「自然と文化科」は設立しましたが、科の目指すべき目標については必ずしも明確ではなく、模索しながらの運営になりました。「自然と文化科」の活動目標を何にするかということは当初からの難題で、自然については児玉様のご指導で植物観察を中心に進めることは議論もなく暗黙の了解でしたが、文化については受け止め方が多様で、特に統一した見解はありませんでした。「自然と文化科」の活動方針として、「自然の営みを理解し、人の活動を歴史的に捉え、人と自然の付き合い方を考察しよう」を定め、文化については活動範囲を限定せずに参加して楽しいことを第一義とし、長い人類の歴史で人と自然の共生について何らかの情報を社会に発信できるようにすれば望外の幸せと考えました。

今では優秀な科員 100 名弱を有する素晴らしい研究科に発展し、独自の調査研究を実施し、社会貢献も着実に果たしています。今後の文化関係の活動では、歴史・文化を自然の面から解析するのも面白いのではと考えています。「自然と文化科」の更なる発展を祈願しています。



第 1 回講座生箕面公開観察会にて 17.5.27

公開講演会を振り返る



顧問(高等科3期) 九津見 明

(平成21・22年度代表)

自然と文化科の主要行事である「公開講演会」(発足当時の名前は単なる講演会、平成16年6月から頭に公開が付いた)は、当科が発足した平成16年4月に第一回目が開かれた。当時科員は僅か19名であったが、古川代表が当初から積極的に講師探しを進められ、年間1回開催された。以後10年間、年間平均10回のペースで続いている。

平成25年の年末に古川さんにお会いした際、“当時、代表の務めの中で公開講演会の講師探しが一番しんどかった”との言葉が私には大変印象深かった。

平成21年4月に私が代表に就任するまでの数年間は、“公開講演会の講師探し”は、当該年度の代表の必須事項であり、いずれの代表も大層苦勞されていたようであった。

私は、平成19年には「顧問：全般担当」、平成20年には「顧問：公開講演会担当」を引受けていたが、平成21年に代表に就任して最初に悩んだのは、公開講演会の運営であった。

それまでの各代表のご苦勞をつぶさに見させて頂いて居たので、この仕事は“私一人では無理”と早々に判断して、当時の科員で幅広い視野と見識を持っておられたT氏に、初の専任幹事(それまで当科には専任幹事という呼称はなかった)を依頼した。その年は、彼の大変な努力もあって1年間無事に運営でき、科員の皆さんの関心も一段と高くなった。

翌22年も代表に推挙されたがT氏は当科を離れられたので作戦の変更が必要になった。広い視野からのテーマの選択、科員諸氏に納得してもらえるような講師の招聘などは、私一人の経験と実力では無理なことは火を見るより明らかであった。そこで考え出したのが「プロジェクトチーム」の創設であった。

当科には色んな分野での経験豊富な方が多くおられるので、副代表を含め数人のプロジェクトメンバーを選任し、皆さんとの合議で講師の推薦・招聘を開始した。同時に全体会議などの際に科員諸氏にも講師の推薦の呼びかけを始めた。爾来、一般科員からは数名の講師が推挙された。また、すべてのプロジェクトメンバーから各人1名以上の講師推薦の実績も出ている。

当初、私は代表就任期間中だけ公開講演会を担当する所存であったが、どこで方向が変わったのかその後も担当を継続し、本稿を執筆する立場になってしまった。

現役時代は若い頃の約10年間を除くと、ほとんどが人間相手の仕事が主だった。その結果対人業務を苦にしない性格になったのか、頼まれば断れず現在まで担当を続けている。

この講演会も平成26年3月で丸10年が経過する。約100回の実績があるが、テーマの多くは“自然”に関するものが多かった。最近では自然と文化科が主催という趣旨で“文化”という切り口からのテーマを積極的に取り入れるようにしている。“死”に関する話題、“エネルギー問題”などがその例である。しかしながら年間10回のテーマ選びはこれからも続く難しい課題である。

私は5年間、公開講演会を担当させてもらったが、この間欠かさず続けて来たことの一つが講師への事前訪問である(例外は1件のみ)。ごく当然のことではあるが、講師に事前にお会いして講演会の趣旨等を紹介することは主催者として最低の礼儀と心得ている。

その際には必ず次の2点を付け加えている。

- ・受講生は殆ど居眠りをしない
- ・会場の座席は前から埋まってゆく

これを申し上げると関心を示される大学関係者が多いのが現状である。

最近の公開講演会には毎回、当科以外から20～30名の受講者があり、本講演会は当科以外の人達からの関心も深くなっている。今後は、シニア自然大学の「公開講演会」という認識で運営を心掛ける必要性が出てきている。



公開講演会(環境情報プラザにて) 17.4.15

自然観察の展開

顧問（高等科1・2期） 児玉 勝久

今年の晩秋の箕面公開観察も、天候にも恵まれ好評のうちに終了した。この公開観察会は科を立ち上げた当初より、科の1つの柱として設けられ、今日まで続けられて来ている活動である。初年度の会場は大阪城公園であったが、次年度からは現在の箕面公園に場所を移して、継続されてきている。「百聞は一見に如かず、されど百見は一行に如かず」という言葉がある。この言葉は自然観察においても、耳で聞くよりは良く観ること、さらに観るだけでなく「行」をすることと説かれる。「行」とは観察で得た知見を熟成し、外に発信せよということであろう。自己の研鑽と講座生の教育実習を兼ねるこの公開観察会も自然観察からの「展開」と言えよう。

最近自然界では、「攪乱」や「気候変動」による種々な変化が論じられるようになってきている。数年箕面公園の同じフィールドを歩いていると、年々植生が変化して来ているのに気付く。人為的な攪乱もあるが自然界自体の攪乱、「鹿による食害」、「ナンキンハゼやアメリカトゲアザミ」などの侵入・拡大、さら

に最近ではカシナガによる「ナラ枯れ」の兆候も見られるようになってきている。このような局地的な「攪乱」に関しては個人的な観察行でも掌握出来ないことはない。ところが「気候変動」の影響のように、長期的また連続的な観察を必要とする調査は個人レベルではどうていなし得ない。

誰しも昔に比べ、サクラの開花が早くなり、紅葉の時期が遅くなって来ていることが「気候変動」の影響ではと定性的には感じていよう。しかし、このような気候変動の自然界への影響を定量的に調べられた例は極めて少ない。

最近「フェノロジー」と呼ばれ、季節的におこる自然界の動植物が示す諸現象、例えば、植物の発芽、開芽（芽ぶき）、開葉、開花、紅葉、落葉などの時期の調査から、これ等の諸現象が気候の変動によってどのような影響を受けるかを知る手法が提唱され、報告もされてきている。このような調査を進めるには、固定のフィールドと、ある程度の植物に対する知識をもった人的集団が継続的に調査を行なう必要がある。自然と文化科の次なる「展開」として現有の箕面や武田尾のようなフィールドで取り上げ、フェノロジー調査を行っては如何であろうか。



5月 クロバイ



9月 カゴノキ



11月 コバノガマズミ



第1回講座生箕面公開観察会 17.5.27



冬芽研修（講師の児玉さん）26.1.10

調査活動について

(高等科4期) 山本 祥子

「自然を理解し、人の活動を歴史的に捉え、人と自然との付き合い方を考える」という、自然と文化科の理念のもと、2007年から、自然と文化科の自然観察の拠点であり、古来から人の住む里に隣り合い、修験道の盛んであった箕面の山の植生を調査してみようという活動が始まった。

当時の箕面の自然観察フィールドであった、聖天橋から山頂の箕面山荘へ、オガ原林道を雲隣台までの道路両側を調査場所とした。

1年目の2007年度は線状の調査場所を57区間に分け、各区間の樹種を調べた。この結果は研究科の研究発表会で発表したけど、どんな結果が現れているか、記録を分布表に表した資料を基に、科のメンバー全員で検討した。分布表を見ているうちに、1本、1本の樹木、花、葉、実を見ているだけでは気が付かなかった、樹木種と生育している場所との関係が気になってきた。

2008年は各区間の樹種だけではなく、それぞれの本数を数えた。箕面の山の樹木の量的な植生の特徴を捉えたいと思った。前述したように、箕面は人の生活する場と近い山

である。

人の生活の影響が植生に現れているのではないかと。古くは寺領林として村人が入ることの許されない森もあったが、田畑の肥料となる草を刈るために、ほとんど丸裸にされた山地もあったという。

その、人の手による攪乱の結果、4、50年前には大木としてはアカマツしかなかったそうだが、今はそのアカマツは衰退し、ヒサカキ、ソヨゴなどに常緑樹が勢力を拡げてきていることが裏付けられた。

2009年、2010年には調査範囲を尾根筋から箕面川沿いの谷筋に移して、尾根筋との植生の比較をしてみた。その結果として、常緑広葉樹と落葉広葉樹の比が尾根筋と谷筋では逆転することがわかった。「紅葉の箕面」として有名だが、意外なことに、谷筋はツバキやサザンカ、アオキなどの常緑広葉樹の比率が高い。2010年には谷筋でのシダ調査を実施し、その結果は「シダ図鑑」(P49 参照)にまとめられた。

2011年は調査場所を箕面の教学の森に移し、2012年にはさらに武田尾の武庫川沿いの道路際の本木調査、2013年には草本調査を実施してきた。

その結果、どんな興味深いことが出てくるか、これからの調査結果の読み取りが楽しみだ。



講座生箕面公開観察会下見 18.5.26

「自然と文化科」の企画

の取り組み

(高等科5期) 堀内 信彦

今日「自然と文化科」は在籍95人と大きな所帯ではあるが、その運営がスムーズでより洗練されてきていることは先輩諸氏の知恵と科員全員の努力によるものと思います。そして、本科がますます発展する事を祈願するものです。

企画の取り組みについて、やっと慣れた1年が過ぎる頃、来季は5期で副代表と企画をやって～な。何で？2008年、こんな感じで始まりました。

科全体のまとめと進行を企画が行い、公開講演会、共通講座の午後とその他の日を「観察」と「企画」が担当しました。

計画はほとんど2～3人で決め、活動しました。言わば個人プレー、特に午後半日は行き先も限られ、苦勞しました。科の内部で講師をお願いした活動も年2回行い、大変好評でした。組織的な活動は2009年からで、初めのテーマは全員参加の企画でした。自然と文化科は高等科を経て科員になれます。

決められたことに参加するのではなく、自分たちの意思で決め行動するとの主旨でした。始めに、行きたい、見たいところ、こんなことをしたい、活動に反映させるために全員からアンケートを取りました。

次に班企画です。企画担当がいるのに何故班で企画するのか？疑問の声もありました。

班とは？固まって行動する仲間？もっと自分たちのお金を有効に使う議論をしたら。そして自分たちの意思を具現化してみたら・・・そんな思いでした。

次は増える科員への行動対策でした。2班に分け、行き先別行動、時差出発、別コースなどへのトライアルとその問題抽出、次期に活かせるでしょう。

今後の企画について、「自然と文化科」の組織も充実し、各々の分野で活躍している。

企画は「自然と文化科」の「文化」を主に担当するが「自然と文化」も含む。

最近、あれは観察、あれは調査等々、縦組織になっているのが少し気になる。横串を通すのは「班」と「企画」の役目であったと思うが、一考の余地あり。

「自然と文化科」この10周年の大半を在席でき、皆さんと切磋琢磨出来たことに感謝します。



木曾五木の旅（一泊研修） 19.10.11

社会貢献活動に思うこと

(高等科2・3期) 堀川 豊司

私達シニア世代は、今まで社会から測り知れない色々な恩恵に浴して生きてきました。その社会の一員である私にその恩返しのできる事は？ 気取らずに、他人様から喜ばれる事は何だろう、何ができるのか。実は8年前に社会貢献活動の話が出た時に気が付きました。社会貢献とはおこがましいが、その真似事でも良い。それは自分の未熟な僅かな知識でも少しでもお役に立てばと、私なりにへ理屈を付けました。その活動の主流がシニア自然観察会であります。

シニア自然観察会では、観察者の、自然の極く一部であっても関心を持って接する姿が、私の未熟な案内と観察者自らの視覚、味覚、臭覚、触覚等の五感により、自らの理解と納得への反応であった時には、私まで嬉しくなります。その為に色々と案内の方策を考える事も楽しみの一つです。

参加者各自の、色々な分野での造詣の幅で、当方の説明の受け止め方に差が出来ると思いますが、結果的に自分の知識の確認と補強、新知識の充足等で、来て良かった、楽しかったと感じて頂けたら、そして機会があれば再

度参加したいと云って頂ければ、無上の喜びを感じます。

シニア世代の多くの方は、自分の関心のある事で周りの人が知らないであろうネタは、自分だけのものにしないで、直にでも教えたがるものです。それが身近にいる孫達への伝達で、若い世代が自然への関心を持つきっかけになればと私は期待しています。

たまたま読んだ、アケボノスギの命名者である木村陽二郎氏の植物随想に「かえでともみじ」の項があり、小学唱歌の「もみじ」に触れられ、「この歌で、カエデとツタは紅葉の代表であり、カエデとモミジは同じでないことがわかる。」とありました。丁度12月の神戸市の須磨離宮公園でのシニア自然観察会直前だったので、紅葉したカエデとツタの説明の絶好の資料だと確信し、美しく紅葉したカエデとツタを前にして、美しい女性コーラスがこだまするだろうと勝手に想像し、配布用歌詞と唱歌の録音を用意して本番を迎えました。何と絶好の日和、わくわくしながら斑の編成を待ちました。その結果は、いつもなら絶対に女性が多いのに、我が斑は4名中男性が3名。それも自己主張の強そうな人ばかり。気の弱い私は「ハァーイ 大きな声と一緒に歌いましょう。」と言う勇気は無かった。残念無念！社会貢献は難しい。



須磨離宮公園にて 25.12.3

広報活動について

(高等科4期) 谷坂 修二

今から8年前の平成18年に、この自然と文化科に入りました。何かお手伝いが出来る事と言うことで、プロジェクターの設営とか資料の整理、研究発表のパワーポイント作成などのお手伝いを始めました。

当時はプロジェクターなども珍しい機器でパソコンに接続しても写らない事が多く、使い慣れた人も少なく、よく呼び出されたものです。

パソコンの『お助けマン』として公開講演会のパソコンの設営の準備、研究発表の資料の準備、自然と文化科の宣伝を目的としたホームページの開設などのお手伝いを始めたのが始まりでした。

その頃は、パソコンは難しい(面倒くさい)と思う人達が多く、パソコンの勉強会などをする、『IT班』を作ってはどうか、パソコンの使い方の指導をしたらどうか、と依頼を受けました。

パソコンは難しい物ではなく、パソコンは使えば使うほど自然に使える道具なので、科員全員、多くの人にパソコンを気楽に(強制的に)に使い続ける方法として、パソコンの技術向上の講習会ではなく、科員の持っている情報を流通させるほうがパソコンの利用向上になると思い『IT班』を『広報』と書き変えて、情報の発信、コミュニケーションの活用を目指したのが『広報』の始まりでした。

最初はコミュニケーション向上として、メンバーの名前がなかなか覚えられないので、写真名簿を作成しメンバーに配信したり、研究発表のために観察の写真記録を集めたり、年間の資料をCDにまとめたりしていましたが、広報科員も増え、情報の発信として平成21年に『自然と文化科だより』の発行が始まりました。



ホームページの画面

『自然と文化科だより』に投稿するのが、いやだいやだと断る方々に投稿してもらいましたが、今では紙面も充実して自然と文化科の顔になってきました。私はこんな絵を書いた、こんな写真を取った、こんな所に行った、良い所が有るから行きませんか、等々もっと増えると好いですね。

情報の活用としてホームページの開設をしました。最初は年1回の書き換えがやっとでした。平成19年度から年4回ほどの書き換えが出来るようになり、平成22年からは即日に新しいデータに書き変わるようになりました。利用価値の高いホームページになっています。次の段階として、個人がホームページに例えば「××日に面白いお祭りが有るから行きませんか」などの呼びかけが出来るようになれば良いですね。

一日一回はホームページを見なければ、明日の計画が出来ないようになるかもしれません。

『活動写真記録』の作成も活動に組み入れられて、最初はデジカメが上手な方が引き受けていましたが、だんだん少しは出来る方もふえてきました。今ではデジカメが上手な方は『自然観察記録』など詳細な美しい写真記録を発表されています。

パソコンが苦手な方も、デジカメの苦手な方も、この広報に情報を出すことにより、パソコンが使い良い道具になって、科員全体のレベルアップになると思います。パソコンは習うより慣れが大事です。

パソコンを使って発表したいものが有るのに、うまく使えない時には、広報に相談するのが一番パソコンを上手に使える近道です。



広報委員会の会議風景 21.4.24

研究・活動発表会への取り組み

副代表（高等科8期） 藤川 宗昭

シニア自然大学校研究部に所属する12の研究科（現在）がその年の活動報告や研究成果を発表する研究・活動発表会が年度末に行われています。以前は講座生も参加して新年度からの進路を考えるプレゼンの場でもありましたが、現在は研究部の科員だけの発表会になっています。各科50分の発表時間で2～3日間かけて行われてきましたが、昨年度から1日で全科が発表することになり、詳しい研究発表などはパネル展示する方式に変更されました。

自然と文化科も発足した2004年以来毎年参加しており、その研究発表テーマは、科の全体活動の中から大阪城公園の植生と公開観察会、箕面の自然——定点観察と観察会、箕面植生調査のまとめ（尾根筋の樹木・鹿害の広がり、尾根筋と谷筋の樹木の植生比較、滝道の草本・シダなど）、箕面滝道の草本・木本調査のデータを用いた4つのテーマ別考察（食べられる植物、薬になる植物・毒になる植物、植物の名前の由来、外来植物）、武田尾と箕面の樹木の植生比較、そして今年度の武田尾の草本毎月調査のまとめ（パネル展示）及び個人研究発表（ミツマタのシュートの展開とユズリハの葉の入れ替り時期の観察、自然の営みと人の活動の調和——環境問題を考察など）です。

今後の研究発表をどのように進めていくかについて取り組む必要があると思います。まず

研究発表を支える体制をどう整えるかです。ここ数年は調査グループ・委員会が調査活動のまとめを発表するケースが続いています。調査委員会は箕面、武田尾など自然と文化科の主活動フィールドの定点観察を行い、観察会の資料準備に資するなどのミッションを持っているので、常に研究発表を意識した活動をするわけにはいきません。

テーマを決めて年間活動する複数の研究グループを作って科員全員（または有志のみ）が加入し、月1回の活動日を研究グループの活動日にあてるなど研究発表を支える体制を新たに作ることも検討してはどうかと思います。一つのテーマについて2～3年かけて深く研究することも可能になり、研究のテーマも広がります。個人の研究発表も盛んにするために、年2回ぐらい科内研究発表会を行い、相互研鑽の場としたいものです。

研究発表のテーマについては、自然観察を続けていく中で気付いた生物の生きるための智慧・工夫を皆さんにもお知らせできるような内容であればいいと思います。



研究・活動発表風景 26. 2. 14



箕面滝道の草木を使った草木膳（2010年度発表資料より）

安全で楽しい活動に向けて



(高等科2期) 高井 茂光

自然と文化科も発足して10年になりました。十年一昔という言葉があります。一昔も過ぎてみれば、あっという間の10年でした。「10年間怪我もなく・・・」と書ければ、こんな喜ばしいことはありませんが、残念ながら、当科では、発足当初に事故が発生しました。

「自然と文化だより」第8号に掲載しています。事故が起きるとはとても思われなような場所で、事故は起きました。しかも救助に駆け付けてくれたレスキュー隊員に「よく命が助かったものだ」と言わせるような重大な事故でした。幸い、その後は大きな事故は起こっていません。朝、元気に「いってきます」と出かけた人が、夜になっても帰ってこない、そうでなくとも入院したり、怪我をする等は絶対にあってはならないことです。本人は勿論、家族にとってもこれほどの不幸はありません。

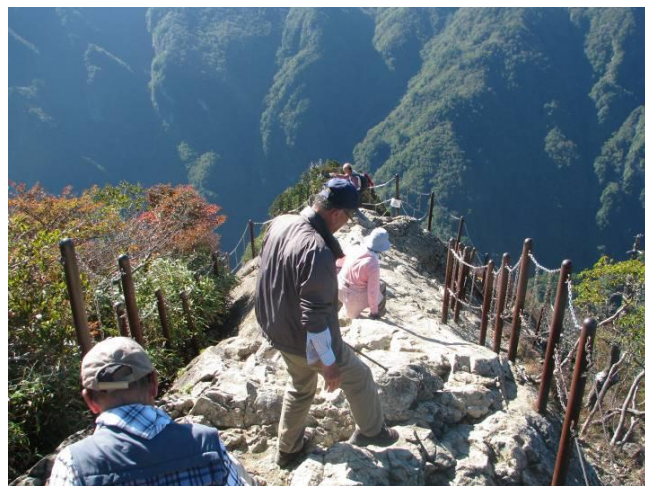
最近も、近くの福崎町にある七種山で中年の女性が岩場で足を滑らせ滑落して亡くなっています。20名ほどのパーティで山の高さも683mですから、我々が普段活動しているフィールドとあまり変わりません。私も登った事がない山ですが、岩場も多く危険を伴う場所が多い山に思われます。リーダーがどれほどの情報を持ち発信し、被害にあわれた方が山の状況をどれ程理解して参加されていたのか大変気になります。危険は山の高さで決まるものではありません。私たちは否応なく年々1歳ずつ歳を重ねています。科も発足して10年もたてば、メンバーの平均年齢も相当に高くなっています。歳を重ねれば、言うまでもなく運動能力は衰え、敏捷性、バランス感覚も劣ってきます。些細なことでバランスを崩し、転落・墜落といったことになりかねません。私たちはこの事実を謙虚に認めなければなりません。

科としても相応の対応が必要になります。下見の時も、道順や観察対象の確認は勿論必要ですが、どこにどんな危険が潜んでいるのかいないのかなども調べて、参加する

皆さんに適確に伝えることも重要かと思います。

安全はあくまでも自己責任です。活動には自分の身体の状態を十分に理解したうえで、休養と睡眠をしっかりとって、万全な体調で参加するように努力したいものです。

このところ事故がないからと言って、これからはないとはいえません。安全を確保して初めて楽しい活動が保証されるのです。



大台ヶ原(大蛇嶺) 25.10.11



班企画(福島消防署による救急救命講習) 24.7.6

工作同好会の活動について

工作同好会チーフ（高等科4期）中川 四郎

2006年から自然と文化科に在籍し、シニア自然観察会や鶴見緑地親子教室などの社会貢献活動に携わるうち、「社会貢献＝植物観察のリーダー」となっているような状況に違和感を感じていた。シニア自然大学校に入って興味を持った工作を通じて自分も楽しみ、かつ他の人も喜んでもらえる活動の場はないかと考えていたところ、自然と文化科として2008年度の方針検討会（幹事会）で同好会活動を積極的に立ち上げて活動の範囲をもっと広げたらどうかと提案された。グッドタイミングであった。

自然工作同好会の立ち上げを提案したところ、自然と文化科の最初の同好会としてバックアップを約束してもらえた。さっそく工作が好きで中心になってもらえそうな方々に声

掛けし、自然の素材を使った工作や折り紙等、創造の喜びを味わうとともに、「鶴見緑地親子教室」や「シニア自然観察会」等をバックアップし、「社会貢献に寄与する」事を趣旨に、2008年4月に31名の会員で発足することが出来た。

年ごとに若干の会員の入れ替わりはあるもののほぼ40人前後の会員が集い、内部講師を中心の研修会（1回/月）を通じて工作の技術も年々向上している。そのような中、同好会発足3年目（2010年）に初めてコンテナラリーアート展にグループ出展し、それ以降毎年1年間の成果発表の場として、会員の1年間の制作作品を一堂に纏めて出展し好評を博している。

社会貢献に対しては、同好会としての直接関与はないが同好会メンバーがそれぞれの立場で、シニア自然観察会・労金祭り・万博ネーチャーラリー等で工作技術等を生かした活動がされている。

今後もメンバーが創造する楽しみを実感しながら社会貢献に役立つ活動が続けて行きたいと思っている。



コンテナラリーアート展に出品 25.12.6～11

箕面探索同好会の活動

箕面探索同好会チーフ

(高等科7期) 谷川 稔

活動の概要

2009 年当時、自然と文化科の活動は、箕面の滝道を中心に活動をしていました。講座生を対象とした観察会をもとに教育実習として、箕面山荘からオケ原林道、雲鱗台、大滝、箕面駅のコースでした。回を重ね、箕面の滝道では、満足いかなくなるにつれ、箕面以外の場所に展望を開く必要が出てきました。また、箕面をもっと知る必要もあると感じました。

当時、80 名からなる自然と文化科は、小回りの利く状態ではなくなってきていました。そこで、小回りの利く小人数で、箕面の良さを引き出せる活動をと、箕面の奥まで行ける探索同好会の設立を幹事会で承認して頂きました。2010 年の新年歓迎懇親会で、企画幹事より提案を受け、教学の森を第 1 回目として活動を始めました。6 月、7 月と雨で中止、10 月 4 日も雨模様となり、箕面のリンボク観察会が第 1 回目となりました。

第 1 回目より現在まで、22 回の計画を行い、雨天中止を除き、17 回の同好会例会を実施できました。現在では、箕面以外の場所も対象に活動を広げています。



箕面大滝 25. 9. 23



オケ原林道「クロバイ」 25. 5. 3



大岩ケ岳 24. 10. 1



屯鶴峯 25. 4. 1

次の10年の更なる発展のために

シニア自然大学校 副代表理事
(高等科3期) 御旅屋 瑛一

私が自然と文化科へ入って10年になります。その間、本科のアシスタントや本科の運営に携わり続けたこともあり、決して出席率の良い科員ではありませんでした。しかし、春になると当然のように更新し続けています。きっと、居心地が良いのだろーと思います。

自然と文化科はその活動理念「自然の営みを理解し、人の活動を歴史的に捉え、人と自然との付き合い方を考察する」とあるように、自然も文化もと非常に幅広分野の研究をしようとする科です。かつては何に重点を置いて活動したら良いかと、試行錯誤の連続ではなかったかと思います。近年は箕面公園や武田尾付近の植生調査を中心に、植物観察会、歴史探訪及び社会貢献を行っています。年度末の活動報告では調査活動の結果を中心にし、研究科の一つとしての体制を整えています。

今後は活動理念にあるような、自然と文化を融合した他の研究科では出来ない研究活動が出来ないかと考えています。

例えば、調査場所の選定は難しいかもしれませんが、植生調査をする場所とその地方における民族文化との関係を研究することが出来れば、より幅広く自然を捉える事が出来ると思われます。

自然と文化科は高等科修了生が加入の条件となっており、更なる学習の場としての意味合いもあると思います。このような研究活動を通して、より幅広く自然を捉えられるようになり、他グループや外部団体へも講師として派遣できる科員が一杯いるような集団になることが期待されているのではないのでしょうか。

シニア自然大学校も次の20年に向かって、どのように活動を進めるか、大きな分岐点に立っています。過去20年の体験が用をなさないような社会の変化が進んでいます。これまでにないアイデアと知恵を出して、新しいシニア自然大学校の活動を編み出していかねばなりません。シニア自然大学校の中核として期待される研究部、その中にあってあらゆる面で中核になって活動する自然と文化科になってほしいし、科員として私も努力をしたいと思っています。

“大きな夢をもってどっしりと進もう。”



総会・オリエンテーション 25. 4. 5



忘年会 25. 12. 20

「自然と文化科」の将来展望について

副代表（高等科9期）溝部 浩二



自然と文化科が今年で10周年を迎えることになりました。これまで多くの諸先輩のご尽力により、研究部で最大規模の人員を要する組織にまで発展してきました。先輩の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。「自然と文化科」の将来展望という大きな題をいただいて恐縮しておりますが、最近の活動を通じて感じていることをいくつか述べたいと思います。

当科は来年度以降100人を超える大所帯が予想されており、活動面において、これまでと違った対応が必要になってきます。観察会や歴史探訪などの野外行事は、多くの仲間とのふれ合いや科の一体感を保つ面から、できる限り全員が同じ日に同じ内容で行動することが望ましいことは言うまでもありません。しかしながら、活動場所の状況等から全員一緒に困難な場合は、全体を2つに分けて一日に別の内容の行事を行うなど、具体的に検討せざるを得なくなってきます。来年度から6班体制になって委員会の幹事数が増え、企

画立案や実行面で新たな戦力が期待できるので、みんなで力を合わせてこうした状況乗り越えていきたいと思います。

また、社会的に高齢化が進み、当科に入ってくる人も高年齢化が予想されます。野外行事の行程では、今でも時々実施していますが、コースを2種類用意するなどの配慮が欠かせなくなるでしょう。

次に、100人を超える陣容になってくる中で、組織の活性化を図るためには、お互いのコミュニケーションを高めていく努力が重要です。在籍期間の長い人も短い人もお互いに仲間として、できるだけ先輩・後輩の意識を感じさせない雰囲気づくりにみんなで協力することが大切ではないかと考えます。そして、だれもが将来に向けて新しい提案やアイデアなどを積極的に出して、話し合うことができる雰囲気ができればよいと思っています。また、班が6つに増加するので、班を超えた科員間の親睦も、これまで以上に必要になってくるように思います。

最後に、毎年活動方針の中に、「参加して楽しい、心が通い合う研究科」を目指すことが掲げられていますが、これはとても大切な基本方針です。「参加して楽しい」とは、「楽しむために参加する」とも読み替えられます。私は、楽しみたいという思いを常に持ちながら、自然と文化科の日々の活動に参加して行こうと考えています。



伊吹山自然観察（4班の皆さん） 25.7.26

〈編集後記〉

10周年記念誌を発刊するにあたり、創設当時の先輩の方々に資料を掘り起こしていただきました。また、科が歩んできた道のりを振り返り、より確かな未来に進んでいくために、「思い」を寄稿していただきました。OB、科員の皆様のご支援、ご協力を得ながら編集に取り組み、何とか無事に完成させることが出来ました。創設から今日までの「歩み」を出来るだけ多く収集するように試みましたが、まだまだ十分ではありません。この記念誌が、私たちの今の立ち位置を振り返り、今後の活動の充実・飛躍に役立てば幸いです。

科の更なる発展を願い、15周年記念誌、20周年記念誌の発刊されることを心より願います。

武井 貢
(平成23・24年度代表)



自然と文化科10周年記念誌

編集委員長 武井 貢

編集委員 児玉 勝久
後藤 銃後
九津見 明
山本 祥子
西村 英男
肥塚 眞
竹谷 律一
古荘 光子
事務局 西村 彦二
畑 寿々子

自然と文化科 10周年記念誌
人と自然の付き合い方を考察して10年
平成26(2014)年3月発行

資料編

19年度(2007年)の主な活動 調査発表委員会設置と箕面植生調査開始(19年～) 成ヶ島バスツアー研修(19年) 鶴見自然教室に参加(19～22年) ホームページの年4回更新の実施	20年度(2008年)の主な活動 箕面尾根筋の植生とシカの食害調査(20年) 自然史博物館展に参加(20年) 相互研修(パソコン、工作、裁判員制度他)(20～22年) 第1回総会開催(20/12) 工作同好会発足(20年～)
--	--

(Ⅱ)発展期(平成21～25年)

平成21年度に科員数が80名に達し、以後さらに100名を超えることが予想されたことから、九津見代表(当時)を中心に、大規模な組織をスムーズに運営するための方策が検討され、以下の諸策が実施された。

	21年	22年	23年	24年	25年
科員数	80名	84名	85名	80名	95名
役員数	21名	20名	26名	27名	28名
代表	21～22年度:九津見 明、23～24年度:武井 貢、25年度:肥塚 真				
(運営体制)					
21年度	委員会の名称変更と観察委員会の設置 (企画/観察/調査/社会貢献/広報/総務)				
21年度	専任幹事の設置				
21年度	全体会議・班会議の設置				
21年度	公開講演会プロジェクト委員会設置				
21年度	規約制定				
21年度	会計監査の設置				
21～22年度	体制検討委員会の設置				
22年度	「モットー」制定				
22年度	旅費規定制定				
22年度	観察リーダー制の廃止(観察委員全員をリーダーとする)				
22年度	平常業務の役割分担の明文化(班と正副班長の役割)				
22年度	23年度の代表候補選出選挙の実施				
23年度	運営委員会設置(代表・副代表・会計・顧問・専任幹事で構成し、幹事会を補完する機関)				
23年度	規約と旅費規定の改正				
23年度	女性の副代表誕生(山本 祥子)				
25年度	月次活動報告書記載外活動実施報告書の作成				

(当該年度から始めた活動のみ記載)

21年度(2009年)の活動 総会・オリエンテーション(21年～) 箕面シダ講習会の開始 箕面公園谷筋での植生調査 アクティブシニアフェアに参加 自然と文化だより」発刊(21/8～) ホームページのデザイン一新 22年度(2010年)の活動 班別活動の試行(20名前後での活動を体験) 班別観察会の試行(武田尾/万博) 箕面でシダ調査開始(22年～) 箕面滝道の木本・草本・シダ調査 万博ゴミゼロウォーク参加(22年～) 箕面の山大掃除大作戦参加(22年～) 箕面探索同好会発足(22年～) ホームページ即時更新の実施	23年度(2011年)の活動 各班による企画の試行(23年～) 労金まつり参加(23年～) 箕面教学の森の植生調査 シダ図鑑作成(23年) 熊さん家のパソコン塾開講(23年) 24年度(2012年)の活動 ホームページのデザイン一新 10周年記念誌編集委員会発足(25/1) 武田尾での植生(木本)調査 25年度(2013年)の活動 武田尾植生(草本)調査 (調査委員を中心に定例活動日以外にも調査)
--	---

平成25年度「自然と文化科」運営体制

I. 組織

1. 総会 (原則 年1回、4月開催) 科の最高決定機関
2. 運営委員会 (原則 毎月1回開催) 科の運営全般について情報交換・協議
代表、副代表、顧問、会計、専任幹事で構成
3. 幹事会 (原則 2～3ヶ月に1回開催) 科の運営の基本的事項について協議・決定
代表、副代表、顧問、会計、幹事、班長で構成
日常の活動計画などの打合せは、代表、副代表、顧問、総務専任幹事で行う

II. 役員・委員会担当表

代表 : 肥塚 眞
副代表 : 藤川 宗昭、溝部 浩二、八木橋 佐知子
会計 : 下浦 美代
顧問 : 九津見 明、児玉 勝久、武井 貢
会計監査 : 堀内 信彦

委員会担当表

委員会	幹事				委員				担当副代表 (顧問)
	1班	2班	3班	4班	1班	2班	3班	4班	
企画	山田	* 藤川 小牧	曾我	山上	後藤(銃)、中川(眞)、 益田	飯田(義)、高井、 堀内	大森、谷川、中村	石橋、武井、 鶴、和田	藤川 (武井)
観察	笹井	星田	* 溝部 牧野	遊上	猪狩、猪野、久保(幸)、 清水、高原(◎飯田(正))	橋本、藤原、 ○森、米村、(◎堂瀬)	児玉、斉藤、谷坂、中川 (義)、永野、(◎宮澤)	大原、武川、 馬場、○吉川	溝部 (児玉)
調査	石川	古荘	* 大庭	田中	川井、倉田、○松堂	太田、岡田、井上 (信)、久保(和)、李三	御旅屋、○川上、 木邨、樋口、松川	池上、小谷、 坪井、西田	溝部 (児玉)
社会貢献	* 長野	吉野	濱田	山邊	井上(寛)、内田、九津見、 土井、藤田(宏)、(下浦)	岡、長岡、 中川(四)、水谷	田村、堀川	岩城、木村、 藤田(憲)	八木橋 (九津見)
広報	八木橋	* 竹谷			宮阪	西村(英)	河合、杉本	山本、(◎野村)	八木橋
総務	下浦		畑	* 西村 (彦)	◎飯田(正)	◎堂瀬	◎宮澤	◎野村	藤川

*: 専任幹事

◎: 班長 ○: 副班長

お願い: 総務委員会に各班長が出席出来ない場合は、その代理者(原則 副班長)は必ず出席 願います。

運営委員会	委員長 : 肥塚 眞、事務局: 西村 彦二
メンバー	大庭、九津見、児玉、下浦、武井、竹谷、 長野、藤川、溝部、八木橋

公開講演会PJ	チーフ: 九津見 明、事務局: 西村 彦二
メンバー	石橋、肥塚、武井、竹谷、長野、藤川、 溝部、宮阪、八木橋、山本

10周年記念誌PJ	チーフ : 武井 貢、事務局: 西村 彦二、畑 寿々子	同好会		
メンバー	九津見、肥塚、児玉、後藤、竹谷、西村(英)、古荘、山本、	工作同好会	チーフ	中川 四郎
		箕面探索同好会	チーフ	谷川 稔

III. 班の運営体制 (班体制: 4班 各23～24名 詳細別途)

- ・班長、副班長: 班の情報連絡・調整役として班活動を推進、班長は幹事会に参加
- ・当番班制: 1ヶ月交代で当番班を設ける(4月担当班: 1班)
全体の出欠確認、活動記録(含む写真)の作成(代表に送付)、各例会の準備など
(資料のコピー、OA機器の設置、会場の設営等)

IV. 各種委員

科員は全員「総務・企画・観察・調査・社会貢献・広報」委員会のどれかに加入
(工作同好会、箕面探索同好会は別途任意に加入)

名 簿（各年度の新入科員を表示）

16年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ7	飯田 義宣	
2	シ8	池田 紀子	退16
3	シ8	川口 紘旗	退16
4	自8	楠本 晃	退16
5	シ9	倉田 祐子	
6	シ9	神代 陸	退17
7	シ8	児玉 勝久	
8	シ9	後藤 銃吾	
9	自8	斉藤 隆	退17
10	シ9	杉本 節子	退23
11	シ9	高井 茂光	
12	自7	武石 東子	退18
13	シ8	中東 和子	退16
14	シ9	中村 章	
15	シ9	古川 祐司	退19
16	シ9	堀川 豊司	
17	シ9	松平 はま子	退16
18	シ9	宮川 睦美	退17
19	シ9	和田 啓志	

17年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ10	井上 信子	
2	シ10	大手 晴雄	退18
3	シ10	御旅屋 瑛一	
4	シ10	川崎 敏雄	退17
5	シ10	上岡 かずみ	退17
6	シ10	岸田 三起子	退19
7	シ10	九津見 明	
8	シ10	近藤 俊彦	退19
9	シ10	坂本 久夫	退22
10	シ10	鈴木 泰子	退20
11	シ10	土橋 敏雄	退17
12	シ10	中川 義昭	
13	シ10	深田 敦夫	退18
14	シ11	岡 俊子	

18年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ10	池上 千代枝	
2	シ10	岡田 純子	
3	自9	八木橋 佐知子	退18
4	シ11	中川 四郎	
5	シ11	藤田 憲治	退23
6	シ11	馬場 昭子	
7	シ11	山本 祥子	
8	シ11	阪本 信良	退21
9	シ11	土井 定男	
10	シ11	益田 尚徳	
11	シ11	久保 幸子	
12	シ11	春山 伸子	退22
13	シ11	岡田 進	退22
14	シ11	左近 康雄	退20
15	シ11	三木 正明	退18
16	シ11	石川 浩	
17	シ11	小早川 郁雄	退19
18	シ11	谷坂 修二	
19	シ11	森 昭	退20
20	シ11	斎藤 ちづみ	
21	シ11	辰巳 仁美	退19
22	シ11	伊東 和彦	退21
23	シ11	田村 光圀	
24	シ11	原口 坦	退19
25	シ11	牧野 功	退21
26	シ11	三木 秋代	退23

※ 備考欄の「退(数字)」は退科した科員の最終所属年度

また、「再入」は、再入科した人を表示しています。

は、25年度現在の在籍者です。

19年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ12	大原 香	
2	シ12	深田 敏子	退19
3	シ12	泉谷 史	退20
4	シ12	中田 和夫	退22
5	シ12	三岡 浩	退21
6	シ12	川口 美智子	退21
7	シ12	堀田 和子	退23
8	シ12	奥内 弘志	退20
9	シ12	西村 英男	退22
10	シ12	長尾 信子	退19
11	シ12	高橋 勲	退21
12	シ12	堀内 信彦	
13	シ12	横山 肇	退20
14	シ12	安永 邦子	退23
15	シ12	米村 倭文子	
16	シ12	谷廣 修司	退19
17	シ12	町井 武	退23
18	自11	石橋 修作	
19	シ12	和田 豊	退19

20年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ13	猪狩 美枝子	
2	シ13	大森 美子	
3	シ13	武井 貢	
4	シ13	坪井 郁子	
5	シ13	水谷 夏子	
6	シ13	宮阪 信次	
7	シ13	中川 恵美	退23
8	シ13	藤井 巖	退20
9	シ13	松山 寿夫	退20
10	シ13	米田 真智子	退20
11	シ13	小坂 正昭	退23
12	シ13	浜嶋 泰子	退21
13	シ13	山本 和男	退20
14	シ13	鍵谷 享子	退22
15	シ13	福田 節子	退22
16	シ13	那須 章弘	退21
17	シ13	山下 勝弘	退23

21年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ13	三浦 節子	退23
2	シ14	井上 寛子	
3	シ14	肥塚 眞	
4	シ14	久保 和枝	退22
5	シ14	谷川 稔	
6	シ14	鶴 敏子	
7	シ14	中川 眞由美	
8	シ14	長野 馨	
9	シ14	橋本 勲	
10	シ14	藤田 宏子	
11	シ14	星田 京子	
12	シ14	牧野 能子	
13	シ14	松川 淑子	
14	シ14	山上 恵子	
15	シ14	伊東 吉夫	退22
16	シ14	北垣 二夫	退22
17	シ14	島谷 啓造	退23
18	シ14	柳生 和嘉	退22
19	シ14	清水 章子	退23
20	シ14	松平 吉生	退23
21	シ14	山内 幸子	退22
22	自9	八木橋 佐知子	再入

22年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ12	泉谷 史	退23
2	シ13	尾崎 和子	退22
3	シ15	内田 きみ子	
4	シ15	小島 伸之	退23
5	シ15	笹井 宏悦	
6	シ15	下浦 美代	
7	シ15	西村 彦二	
8	シ15	畑 寿々子	
9	シ15	濱田 嵯智子	
10	シ15	藤川 宗昭	
11	シ15	杗三 文作	
12	シ15	遊上 眞一	

泉谷史は再入

23年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ16	猪野 守	
2	シ16	川井 むつ子	
3	シ16	木邨 圭子	
4	シ16	小牧 敬二	
5	シ16	曾我 千津子	
6	シ16	田中 悦朗	
7	シ16	武川 雄二	
8	シ16	竹谷 律一	
9	シ16	西田 喜代三	
10	シ16	仁科 幸子	退24
11	シ16	溝部 浩二	
12	シ16	森 隆子	
13	シ16	吉野 久司	

24年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ14	久保 和枝	再入
2	シ17	大庭 健	
3	シ17	樋口 晴子	
4	シ17	古荘 光子	
5	シ17	八木 大吉	退24
6	シ17	山田 勝己	
7	シ17	山邊 明美	
8	シ17	渡邊 甫	退24
9	シ17	岩城 正大	
10	シ12	西村 英男	再入

25年度			
No.	期	氏名	備考
1	シ9	杉本 節子	再入
2	自8	太田 由紀子	
3	シ11	藤田 憲治	再入
4	シ18	飯田 正恒	
5	シ18	河合 絹子	
6	シ18	川上 健二	
7	シ18	木村 弘	
8	シ18	小谷 愛子	
9	シ18	清水 忠	
10	シ18	高原 富佐子	
11	シ18	堂瀬 広幸	
12	シ18	永野 徹	
13	シ18	長岡 幸子	
14	自17	野村 健次	
15	シ18	藤原 雄平	
16	シ18	松堂 忠義	
17	シ18	宮澤 富美雄	
18	シ18	吉川 時子	

※ 備考欄の「退(数字)」は退科した科員の最終所属年度
また、「再入」は、再入科した人を表示しています。

は、25年度現在の在籍者です。

月	日	曜	行き先	行事内容	備 考
6	10	金	武田尾	自然観察会	武田尾
	24	金	阪急芦屋川駅 六甲ケーブル下	自然観察会	宝殿橋バス停～六甲ケーブル山上駅 1班・2班 六甲ケーブル山上駅～宝殿橋バス停 3班・4班
7	1	金	鶴見咲くやこの花館	午後 温室見学	咲くやこの花館（高山植物、熱帯の植物観察会）
	8	金	水無瀬	自然観察会	若山神社～水無瀬溪谷
	9	土	箕面	シダ講習会(人博 鈴木武氏)	講義と箕面シダ観察(定員30名)
	22	金	小谷城	自然観察会	小谷城散策(日帰りバスツアー)
8	12	金	醍醐	自主活動	上醍醐寺観察会
	26	金	箕面	植生調査	箕面公園滝道のシダ調査
9	9	金	池田	自然観察	五月山
	30	金	箕面	箕面公開観察会	講座生対象箕面観察会
			箕面	自然観察	リーダー以外の箕面観察会
10	27	木	高野山	1泊旅行	高野山(宿坊遍照光院の旅)
	28	金			
11	4	金	箕面	植生調査	箕面教学の森の樹木調査
	11	金	8:00 大和ハウス前	自然観察会	若杉原生林観察会(日帰りバスツアー)
	25	金	箕面	箕面公開観察会	講座生対象箕面観察会
			箕面	自然観察会	リーダー以外の箕面観察会
12	9	金	10:00 能勢電 妙見口駅	自然観察会	能勢 高代寺
1	27	金	武田尾	自然観察会	冬芽の観察 武田尾
2	3	金	有馬富士公園	自然観察会	有馬富士公園
3	9	金	中山寺	自然観察会	中山寺～中山観音梅林～奥ノ院～清荒神
	23	金	和歌山県	自然観察会	和歌山県 天神崎

24年度

4	13	金	能勢高代寺	自然観察会	春の能勢の植物観察
	20	金	武田尾	自然観察会	桜が見ごろ
5	4	金	箕面	サクラ観察ハイキング	箕面鉢伏山
	18	金	箕面	講座生箕面観察会	下見:全科員参加
	25	金	箕面	◎講座生箕面観察会	本番:リーダーのみ参加
			京都植物園	自然観察会	京都植物園:箕面のリーダー以外
6	8	金	但馬高原植物園	自然観察会(日帰りバス旅行)	但馬高原植物園
	29	金	箕面	シダ講習会(自主活動)	講師:人と自然博物館研究員 鈴木 武
7	13	金	神戸森林植物園	自然観察会	神戸森林植物園
8	24	金	箕面	自然観察会(調査委員会担当)	箕面滝道のシダ植物の観察
	30	金	赤沢自然休養林	一泊研修旅行	赤沢自然休養林と御岳山ロープウェイ
	31	土			
9	7	金	金剛山	(日帰りバス旅行)	金剛山(自然観察会)
	24	月	箕面	講座生箕面観察会	下見:リーダーのみ参加
	28	金	箕面	講座生箕面観察会	本番:リーダーのみ参加
			京都御苑	自然観察会	京都御苑:自然観察会(箕面のリーダー以外)
10	5	金	武田尾	自然観察・調査	武田尾草本調査
	12	金	私市	自然観察会	くろんど池
11	9	金	くつきの森	自然観察会	くつきの森(日帰りバス旅行)
	30	金	箕面	講座生箕面観察会	本番:リーダーのみ参加
			大阪城公園	大阪城公園自然散策	箕面のリーダー以外
12	14	金	園田	自然観察会	猪名川下流
1	25	金	武田尾	自然観察会	武田尾 冬芽観察会
2	1	金	服部緑地公園	自然観察・調査	服部緑地で野鳥観察と樹木観察
	22	金	京都府立植物園	自然観察会	京都府立植物園
3	8	金	中山	自然観察会	中山～清荒神
	22	金	六甲	自然観察会	六甲山上

年度	月 日	場所・行先	内 容	案 内
	1月29日	上ノ太子	太子町歴史と竹之内街道散策 1・3班	観光ボランティア
	2月5日	上ノ太子	太子町歴史と竹之内街道散策 2・4班	観光ボランティア
	2月12日	阪急池田	池田市内散策、ラーメン手作り体験	観光ボランティア
	3月5日	巻向	古墳巡り	観光ボランティア
	3月29日	犬山市	日本モンキーセンター見学(バスツアー)	
22年	6月4日	大阪城公園	大阪城歴史散策	
	6月25日	伏見	伏見散策と朝日新聞京都工場見学	
	7月2日	桜ノ宮	造幣局見学	
	7月9日	猪名川町	多田銅銀山と猪名川の里山巡り	
	8月13日	山科	自主活動(山科-疎水-大文字火床-銀閣寺	
	9月3日	平野	平野町ぐるみ博物館散策	
	10月1日	山下・日生中央	三草山・セフィスの森・棚田・炭焼き窯見学	
	12月3日	桃谷	食の研究 コリアタウン散策	
	2月25日	野田	大坂中央卸売市場体験・健康講座	
	3月4日	長岡京	長岡今日の歴史散策とサントリー工場見学	
	3月11日	但馬	竹田城と天瀧散策	
	3月31日	桜井・八木	ぼけ封じの道と今井町散策	
23年	6月3日	万博公園	民族博物館見学	
	7月1日	鶴見緑地	咲くやこの花館見学	
	7月22日	長浜	小谷城跡散策と小谷・江のふるさと館見学	
	8月5日	JR尼崎	雷テクノロジーセンター見学	
	8月12日	醍醐	自主活動(上醍醐寺観察会)	
	9月2日	吹田	旧西尾家住宅見学	観光ボランティア
	10月14日	京田辺	一休寺見学・甘南備山散策	
	12月2日	阪神西宮	酒どころ西宮の酒蔵地帯と西宮神社を巡る	
	2月10日	JR明石	平清盛関連歴史ウォークと明石天文台・魚棚見学	
	2月24日	摂津富田	いましろ大王の杜を訪ねて	
	3月2日	淡路島	野島断層・渦潮の道・大塚国際美術館見学	
	3月30日	伏見稲荷	京都東山トレイル(伏見稲荷～清水寺)	
24年	5月4日	箕面	箕面川ダム周遊観察	
	6月22日	京田辺	一休寺見学・甘南備山散策	
	7月6日	NPOプラザ	救急法・AED体験	福島消防署員
	7月27日	舞子	須磨海浜水族園と周辺散策	
	8月3日	阿波座	津波・高潮ステーション見学	
	8月30日	木曽路	一泊研修 赤沢自然休養林等観察・観光	
	8月31日		御嶽高山植物園・馬籠・妻籠散策	
	9月14日	谷町4丁目	大阪府警施設見学	
	10月26日	宇治	天瀬ダム～平等院見学	
	11月2日	赤穂	赤穂浪士の町を巡る(バスツアー)	
	12月7日	府合同庁舎	大阪管区气象台見学	
	2月15日	森ノ宮	上町台地見学	
	3月29日	余呉湖	余呉湖と賤ヶ岳(バスツアー)	
25年	5月24日	上町台地	上町台地北部散策と大阪城公園自然観察	(雨天中止)
	7月5日	南港	ATCグリーンプラザ見学	
	7月12日	大津	琵琶湖疏水巡り	
	8月2日	阪神岩屋	神戸人と防災未来センター見学	
	8月16日	東おたふく山	六甲山ハイキング	
	8月23日	比叡山	比叡山延暦寺(バスツアー)	
	9月6日	吹田市	アサヒビール吹田工場見学	
	10月11日	大台ヶ原	東大台ハイキング	
	11月1日	浜寺駅	阪堺線に乗って堺散策	
	11月22日	保津峡	嵯峨野紅葉狩りハイキング	
	12月6日	新梅田シティ	セキスイハウス「新里山」見学	セキスイハウス
	1月24日	淡路島	国生み神社と灘黒岩水仙郷巡り(バスツアー)	ボランティアガイド
	3月14日	奈良県高市郡	高取城跡(バスツアー)	

(雨天中止になった行事を含む)

シニア自然観察会実績表(平成18年～25年)

平成18年度

	実施日	対象団体	人数	観察会場所	備考
1	6月30日	生野区老人福祉センター	33	御勝山南公園	
2	10月3日	尼崎老人福祉センター・和楽園	23	大物公園	
3	10月6日	尼崎老人福祉センター・千木喜園	27	武庫川河川敷	
4	11月2日	鶴見区老人福祉センター	49	鶴見緑地公園	
5	12月8日	下京老人福祉センター	38	渉成園	

平成19年度

1	5月29日	下京老人福祉センター	60	渉成園	
2	11月15日	右京老人福祉センター	50	嵐山	

平成20年度

1	5月8日	城東区老人福祉センター	37	鶴見緑地公園	
2	5月29日	OG福祉財団	73	万博記念公園・日本庭園	
3	6月19日	鶴見区老人福祉センター	46		工作に変更
4	9月11日	北区北老人福祉センター	42	長居公園植物園	
5	9月18日	港区保険福祉センター	32		工作に変更
6	10月16日	奈良市・若草公民館	27	聖武天皇陵	ならなぎに依頼
7	10月30日	京都・醍醐老人福祉センター	11	醍醐・折戸公園	
8	11月13日	下京老人福祉センター	39	渉成園	
9	11月20日	右京中央老人福祉センター	28	京都御苑	

平成21年度

1	5月19日	大阪・北区老人福祉センター	40	長居植物園	
2	6月9日	OG福祉財団	84	万博・日本庭園	
3	7月30日	京都・下京老人福祉センター	18	京都御苑	
4	11月10日	大阪・西区北老人福祉センター	50	八幡屋公園	
5	11月26日	大阪・中央区老人福祉センター	50	大阪城公園	

平成22年度

1	5月27日	OG福祉財団	90	万博・日本庭園	
2	6月22日	城東区老人福祉センター	24	鶴見緑地公園	
3	9月16日	西区老人福祉センター	28	長居植物園	
4	10月21日	城東区老人福祉センター		鶴見緑地公園	
5	11月16日	京都・下京老人福祉センター	24	渉成園	

平成23年度

1	10月18日	京都・右京中央老人福祉センター	31	京都植物園	
2	11月8日	京都・下京老人福祉センター	51	京都御苑	

平成24年度

1	7月31日	住吉区民センター	21	京都御苑	
2	10月18日	京都・山科中央老人福祉センター	34	京都御苑	
3	10月22日	奈良・田原本町生活大学	47	京都御苑	
4	11月6日	神戸・須磨区老人クラブ連合会	49	相楽園	
5	11月22日	京都・右京中央老人福祉センター	29	京都御苑	

平成25年度

1	5月23日	旭区食生活改善推進員協議会	43	万博・日本庭園	
2	6月18日	京都・左京老人福祉センター	27	鶴見緑地公園	
3	9月26日	東住吉区老人福祉センター	38	長居植物園	
4	10月10日	奈良・三笠女性フォーラム	30	渉成園	
5	10月28日	奈良・田原本町生活大学	46	鶴見緑地公園	
6	11月20日	京都・山科中央老人福祉センター	36	京都御苑	
7	12月3日	神戸・須磨区老人クラブ連合会	47	須磨離宮公園	

社会貢献 (シニア自然観察会を除く)

年度	月 日	場 所	実施内容	内容・作品名・依頼者
16年	5月15日	万博自然文化園	工作指導	住友生命社員研修
	6月5日	万博自然文化園	万博ネイチャーラリー	講座生の見本として、従来実施してきたもの
	8月24日	本田小学校	セミの抜け殻調査	本田小学校3年 校庭植物観察と松島公園調査
	10月17日	大阪城公園	市民フェスタ大阪	ミクロの世界、不思議発見
17年	5月18日	鶴見緑地	鶴見ネイチャー	自然の恵みで工作(クリ坊・フクロウ・ウグイス笛等)
	5月21日	鶴見緑地	鶴見ネイチャー	自然の恵みで工作(クリ坊・フクロウ・ウグイス笛等)
	11月20日	鶴見緑地	鶴見フェスタ	オナミダーツ・ミクロの世界(10投で得点を競う他)
18年	4月19日	大阪城公園	大阪フェスタ	ミクロの世界と自然工作
	4月20日	大阪城公園	大阪フェスタ	ミクロの世界と自然工作
	6月10日	鶴見緑地	鶴見ネイチャー	オナミダーツ・ミクロの世界(ウグイス笛・ブウブウ笛・トロ)
	9月5日	藤井寺小学校	セミの抜け殻調査	調査数 クマゼミ302、アブラゼミ84
	11月23日	鶴見緑地	鶴見ネイチャー	オナミダーツ・ミクロの世界(ミニ額アート・ブローチ・お面)
19年	6月2日	鶴見ネイチャー	自然工作他	
	9月4日	藤井寺	セミの抜け殻調査	藤井寺南小学校
	11月17日	鶴見緑地	オナミダーツ・ミクロの世界	ドングリで金銀銅の景品を準備
20年	6月1日	鶴見緑地	自然教室	つるみ緑地自然教室
	6月8日	鶴見緑地	自然教室の予備日	つるみ緑地自然教室
	9月4日	藤井寺	セミの抜け殻調査	藤井寺南小学校
	11月15日	鶴見緑地	自然教室	オナミダーツ・ミクロの世界(ドングリで金銀銅の景品を準備)
21年	6月6日	鶴見緑地	鶴見自然教室	鶴見緑地公園・社会貢献事業
	9月3日	藤井寺	セミの抜け殻調査	藤井寺西小学校
	10月31日	大阪城公園	アクティブシニアフェア	大阪城公園自然観察会
	11月14日	鶴見緑地	鶴見自然教室	鶴見緑地公園・社会貢献事業
22年	6月5日	鶴見緑地	鶴見自然教室	オナミダーツ・ミクロの世界(ドングリで金銀銅の景品を準備)
	11月6日	万博公園外周	ゴミゼロウオーク	財団・千里リサイクルプラザ
	11月13日	鶴見緑地	鶴見自然教室	オナミダーツ・ミクロの世界(ドングリで金銀銅の景品を準備)
	12月4日	箕面公園	箕面の山大掃除作戦	箕面の山の不法投棄の多い場所
23年	11月5日	万博公園外周	ゴミゼロウオーク	財団・千里リサイクルプラザ
	11月13日	近畿労金ビル	工作	近畿労働金庫
	12月3日	箕面	箕面の山大掃除作戦	箕面の山パトロール隊
24年	11月10日	万博公園外周	ゴミゼロウオーク	財団・千里リサイクルプラザ
	11月11日	近畿労金ビル	工作	近畿労働金庫
	12月1日	箕面	箕面の山大掃除作戦	箕面の山パトロール隊
25年	11月9日	万博	万博ゴミゼロウオーク	万博外周道路のゴミを回収しながらウオーク
	12月7日	箕面	箕面の山大掃除作戦	箕面の山の掃除

H24年度

	開催日	テーマ	講師所属	氏名
1	4月27日	＜「死にざま」こそ人生＞ ー「ありがとう」と言って逝くための10のヒントー	学校法人金城学院・学院長	柏木哲夫
2	6月15日	ミツバチの分業と収穫ダンスー協力関係のない世界	兵庫県立大学・教授	大谷 剛
3	7月20日	海水が原料となる未来エネルギー「核融合発電」とは	核融合科学研究所・教授	高畑一也
4	8月17日	魅惑のオーロラとアラスカの大自然	関西環境管理技術センター・常任参与 環境写真家	佐藤ケンジ
5	9月21日	＜心身の老化防止と食事＞	大阪女子短期大学・学長	中野長久
6	10月19日	大阪の水がめ「琵琶湖」の水環境の維持についての試み	大阪大学工学部・名誉教授	菅 健一
7	11月16日	DNAが解く“いのち”の謎ー癌から本能まで	JT生命誌研究館・顧問／大阪大学・名誉教授	吉川 寛
8	12月21日	メヂカラを鍛えてQOLを改善する	愛知工業大学・教授	石垣 尚男
9	1月18日	環境に配慮したハウス園芸とその背景	野菜ソムリエ	小松広幸
10	3月15日	これからの電力事業の在り方を考える	YS Energy Research・代表	山藤 泰

H25年度

1	4月19日	「死後の世界」と東西文化の交流 ー日本の冥界観はどこから来たのか？ー	大阪大学大学院文学研究科・教授	荒川正晴
2	6月21日	卯の花の匂いは？ーウツギの民俗学ー	兵庫県生物学会・顧問	清水美重子
3	7月19日	大阪を創造都市に	大阪市立大学大学院創造都市研究科・教授	佐々木雅幸
4	8月30日	わたしたちヒトはいったい何者なのか？	人と自然の博物館・主任研究員	三谷雅純
5	9月20日	ドイツが挑むエネルギー転換	元ドイツ和光純薬・社長	藤澤一夫
6	10月18日	ことば遊びで脳トレーニング！	大阪教育大学・教授	小野恭靖
7	11月15日	大阪市大植物園の魅力と可能性	大阪市立大学理学部附属植物園・講師	植松千代美
8	1月17日	料理で脳トレ！ 料理で健康！	大阪ガス エネルギー文化研究所・研究員	山下満智子
9	2月21日	東日本大震災に学ぶ未来創生：森里海連環の時代を拓く	京都大学・名誉教授	田中 克
10	3月28日	自然暦とくらし	吹田市立博物館・館長	中牧 弘允

写真で振り返る 10 年(1)



自然観察-甲山森林公園にて 16.4.30



京都御苑植生調査-凝華洞跡前にて 16.5.14



熊野路 近露王子にて(一泊研修) 17.2.24-25



川湯温泉にて(一泊研修) 17.2.24-25



但馬路 建屋のヒダリマキガヤ(一泊研修) 17.3.24-25



公開講演会風景(NPO プラザにて) 17.9.16

写真で振り返る 10 年(2)



鶴見ネイチャーラリー(工作) 17.5.21



生駒棚田植生調査にて 17.7.1



箕面講座生観察会下見 17.11.11



大阪フェスタ(自由工作) 18.4.19



西はりま天文台にて(一泊研修) 18.11.9-10



鶴見ネイチャーラリー 18.11.23

写真で振り返る 10 年 (3)



岡山森林公園にて(一泊研修) 18.11.9-10



冬芽観察-武田尾にて 19.1.26



鶴見ネイチャーラリー(自由工作) 19.6.2



鶴見ネイチャーラリー(オナモミダーツ) 19.6.2



成ヶ島にて自然観察 19.7.27



自然観察と歴史探訪(京都渉成園) 18.11.3

写真で振り返る 10 年(4)



中池見湿原にて(一泊研修) 20.10.23-24



三方五湖を眺めながらの朝食 20.10.23-24



自然観察会-甲山森林公園にて 20.6.13



歴史文化探訪-伏見桃山陵にて 21.2.27



セミの抜け殻調査 21.9.3
(藤井寺西小学校・辛国神社)



写真で振り返る 10 年(5)



歴史文化探訪-鞍馬・貴船にて

21.8.28



観察会の帰路-信貴山口駅にて

22.10.8



万博ゴミゼロウォーク

22.11.6



自然観察-春日山原始林にて

22.12.10



歴史文化探訪-竹田城にて

23.3.11

(東日本大震災発生の日)

写真で振り返る 10 年(6)



宇治植物園-花と水のタペストリーの前にて 23.3.25



アブオシの観察(質面講座生公開観察会) 23.5.27



モックンづくりに励む皆さん 23.9.16



労金まつり(工作風景) 23.11.13



班企画-酒蔵の町(西宮)巡り 23.12.2

写真で振り返る 10 年 (7)



歴史文化探訪-淡路島大鳴門橋にて 24.3.2



神戸森林植物園観察会 24.7.13



赤沢自然休養林・御岳・寝覚め床・妻籠宿(一泊研修) 24.8.30-31



宇治・天ヶ瀬 散策 24.10.26



大阪城公園自然観察 24.11.30

写真で振り返る 10 年(8)



班会議(1班の皆さん) 24.11.16



歴史文化探訪-余呉湖から賤ヶ嶽へ 25.3.29



オリエンテーション(3班の皆さん) 25.4.5



新入科員を迎えての懇親会 25.4.5



講座生質面公開観察会 25.5.17



武田尾観察会(木陰で昼食) 25.5.31

写真で振り返る10年(9)



天生湿原・白川郷(一泊研修) 25.6.28-29



大台ヶ原ハイキング 25.10.11



嵯峨野紅葉狩りハイキング 25.11.22



るり溪とささやまの森公園(安田の大杉) 25.11.8

調査・研究部 研究活動発表会 26. 2. 14



パネル展示と調査委員会の皆さん



パワーポイントによる活動報告

写真で振り返る10年(10)



能勢妙見山自然観察(1班の皆さん) 25.4.26



ウワミズザクラ



箕面公園自然観察会(2 班の皆さん) 26.3.7



比叡山延暦寺にて(3班の皆さん) 25.8.23



サクラタデ



大台ヶ原ハイキング(4班の皆さん) 25.10.11

箕面公園

シダ図鑑

平成22年度改訂版

シニア自然大学・自然と文化科

種名	頁
アイノコクマワラビ	1
イヌカタヒバ	2
イヌシダ	3
イヌワラビ	4
イノデ	5
イノモトソウ	6
イブキシダ	7
イワガネゼンマイ	8
イワガネソウ	9
イワトラノオ	10
イワヒメワラビ	11
ウラジロ	12
オオイタチシダ	13
オオカナワラビ	14
オオキヨズミシダ	15
オオハナワラビ	16
オオバノイノモトソウ	17
オオヒメワラビ	18
オオベニシダ	19
オクマワラビ	20
オニヤブソテツ	21
カタヒバ	22
カニクサ	23
キジノオシダ	24
クマワラビ	25
クラマゴケ	26

ゲジゲジシダ	27
コウヤコケシノブ	28
コシダ	29
コハシゴシダ	30
コバノカナワラビ	31
コバノヒノキシダ	32
コヒロハハナヤスリ	33
サイゴクベニシダ	34
シケシダ	35
シシガシラ	36
シノブ	37
ジュウモンジシダ	38
セフリイノモトソウ	39
ゼンマイ	40
タチシノブ	41
チャセンシダ	42
テリハヤブソテツ	43
トウゴクシダ	44
トキワタリノオ	45
トラノオシダ	46
ナガバヤブソテツ	47
ナチシケシダ	48
ナンゴクナライシダ	49
ヌリトラノオ	50
ノキシノブ	51
ノコギリシダ	52
ハカタシダ	53

ハコネシダ	54
ハシゴシダ	55
ハリガネワラビ	56
ヒトツバ	57
ヒメカナワラビ	58
ビロードシダ	59
ヒロハイヌワラビ	60
ヒロハヤブソテツ	61
フモトシダ	62
ベニシダ	63
ホウライシダ	64
ホシダ	65
ホソバカナワラビ	66
ホソバヤマヤブソテツ	67
ホラシノブ	68
マメツタ	69
ミゾシダ	70
ミツデウラボシ	71
ミドリヒメワラビ	72
ミヤコヤブソテツ	73
ヤブソテツ	74
ヤマイタチシダ	75
ヤマヤブソテツ	76
ヤウラシダ	77
リュウメンシダ	78

2009年8月7日
第001号

自然と文化だより

発行 NPOシニア自然大学
自然と文化科

目次

P1
今号の TOPICS
より楽しい「自然と文化科」を目指して
代表 九津見 明

P2
仲間たちの近況報告
1班
鞍馬から貴船へ
奇想天外・荒唐無稽な伝説と自然
P3
2班
高山植物を愉しむ
3班
音楽は心の潤滑油

P4
4班
主基祭田
広報
箕面 自然観察 検定
みんなでチャレンジしよう

◇主要行事予定
後半も各班の提案を出来るだけ
尊重し、皆さんが参加しやすい企
画を提供します。
また、今後の活動には研究科
のテーマでもあります「淀川水系」
にかかわるものも取り上げます。
主要行事の 1 泊研修旅行(10
月 22・23 日)は初秋の岡山森林
公園を考えています。



今号の TOPICS

★より楽しい「自然と文化科」を目指して

代表 九津見 明

私がシニア自然大学に入学して今年で7年目である。入学時には60才を既に過ぎていたが、出来るならあと2〜3年ほど在籍したいと思っている。我々は小学校を終えたあと、中学校へ入り大学を卒業するまでに最低10年かかった。この10年間で、その後の人生を送る様々な基盤が形成されたと思う。その基盤をベースに、人生の約半分を過ごしたが、60歳以降の熟年期の人生はその延長線上では新鮮さに欠け、惰性になりか

ない。
そこで60歳以降に、新たに約10年間をかけて何かを経験すれば、今後の人生は時間的には短い、従来とは全く違った生き方が見えてくるのではないかなと思っている。

自然と文化科の方針には従来から、「参加して楽しい」という文言が入っている。私達の年代では、何事も参加して楽しくなければ絶対に長続きはしないと思う。学びでも、遊びでも、ボランティア活動でも然り。私は、現在偶々、自然と文化科のお世話をする立場にあるが、いつもこれを強く意識している。私達の科は、全て自作自演である。皆で考え、計画し、実行する。楽しくなければ目的意識も参画意識も希薄になるだろう。現実の「自然と文化科」は、新入会の諸氏の期待とは違っているかもしれないが、今後も運営面などへの積極的な参加を期待している。

このたび、発刊の運びとなった「自然と文化だより」への投稿・編集なども是非、楽しみながら活動の一環にしてみたい。

「自然と文化科」は設立以来、今年で6年目である。その間、科員数は、15、29、48、62、69、80人と、毎年15〜20人ずつ増えてきている。喜ばしい限りであるが、本年度と同様の活動をこれからも継続するには、限界に近い人数になっていると思う。今後、「楽しく、自作自演」等の方針を堅持するには、何らかの策が不可欠であろう。すでに検討は始まっており、この誌上での問題提起は相応しくないかもしれないが、現実の課題として多くの科員のアイデアと協力を期待している。

掘鑑期を終え、やっと形作りが出来つつある「自然と文化科」をより存在感があり、科員が楽しく活動できる場にするため、皆で知恵を出し合ひましょう。本件の結論は急がれているが、現科員が次年度以降も参加して楽しめ、人生に潤いを与える科であり続けることが最優先であることは論を待たない。

平成16年度ホームページの画面

自然と文化科

「自然と文化科」は、高等科修了生を中心にして今春発足しました新しい

「自然と文化科」は、高等科修了生を中心にして今春発足しました新しい研究科です。「自然と文化科」では自然観察などにより自然を学び、自然と親しむことにより自然界について理解を深め、この自然と人の暮らしの関係について考察していきます。人々は古くからこの自然の恩恵を受けて暮らしてきました。都市化した環境の中で暮らす現代社会人はともすれば自然との係わり合いを考える余裕を失っています。「自然と文化科」では原点に戻り、自然と人が共に暮らす社会を模索します。

「自然と文化科」の活動内容

1. 自然観察を重視し、自然を理解する。
2. 自然の中で育まれた文化を理解する。
3. 自然と人の係わり合いを歴史的に考察する。
4. 自然と人の共生を考える。
5. 「自然と文化科」主催の講演会を月に一度開催し、問題提起、啓蒙活動に資する。
6. 目を外に向けて、社会貢献に力を入れる。

活動計画
自然と文化科主催講演会
活動風景

春休み親子自然教室
(M16.3.27)

"I wonder why progress looks so much like destruction."



平成25年度ホームページの画面

自然と文化科の理念
自然の営みを理解し、
人の活動を歴史的に捉え、人と自然との付き合い方を考察する

最近のトピックス

公開講演会
豊岡に学ぶ未来創生(2月21日)



自然観察の眼
武田尾冬芽(1月31日)



工作同好会
お雛様 & 小物(2月17日)



規約

学ス

方針

活動予定

公開講演会

機関紙

観察の眼

トピックス

社会貢献

調査記録

工作同好会

留の広場

英語同好会

http://www.siren-daigaku.com/~siren-bunka/index.htm

2014/02/25



11号 山本祥子さん



10号 後藤銃吾さん



13号 岩城正大さん



11号 宮阪信次さん



10号 Y.N.さん



6号 大森美子さん



2号 中川恵美さん

「自然と文化だより」に掲載された絵画、絵手紙などの作品を紹介しています。
作品の下に同誌の号数と投稿者名を表記しています。



特定非営利活動法人 シニア自然大学校

研究部 自然と文化科